令和４年７月号

川越セントノア病院　〒350-1155 埼玉県川越市下赤坂２９０－２
TEL049-238-1160　FAX049-238-1162　https://www.saintnoah-kawagoe.jp

ノアの爽風（かぜ）

～目次～

- 病院短信『共感力』　長山　あや
- 看護日誌　川野　和恵
- 作業療法科だより　寺崎　竜也
- 日常の一コマ　清水　直美

７月の予定

- ◆七夕　正面玄関に七夕飾り設置
- ◆誕生日会　各病棟にて
- ◆おやつバイキング　各病棟にて

院庭ハイク

さわやかな青空の下、シャボン玉やボール遊びを楽しみました。

シャボン玉マシンガン発射～(｀ー´)ノ

目指せ！160キロ！！

ラジコンカー🚗
上手く操縦できるかな～～？

パンチングマシーン‼
ダブルパーンチ(｀ー´)ノ

今月のナナ

ナナもだいぶ大人になってきました❣一人で遊べるし、ラジオ体操もできるの(*’▽’)ｖ

ナナ3か月時❣

ナナー人遊び!(^^)!

病院短信　　３病棟師長　長山　あや

『共感力』

梅雨明けが近づき、夏本番の暑さが迫ってきています。厳しい暑さに体調を崩さぬよう十分注意したいと思います。

まだまだコロナウイルスの感染対策が欠かせない中、面会制限も続きご家族の皆様も心配なのではないかと思います。病棟内では患者さんの体調管理はもちろんですが、少しでも笑顔を作り出すことができるようにスタッフがいろいろな工夫をしています。その一つに病棟内の飾り付けがあります。季節に合わせた色とりどりの飾りに患者さんの頬も緩み、穏やかな時間が流れます。皆さんに見ていただけず残念です。

喜びなどの感情を共にすることを共感と言いますが、この共感力が人間関係の形成には欠かせないものだと思います。

共感力の高い人は相手の話を聞きながら、相手の気持ちや言いたいことを自分自身に重ねて理解しています。相手の気持ちに寄り添った行動や発言が出来ます。そのため、良好な人間関係が構築できます。でも、良いことばかりではありません。相手のネガティブな感情にも共鳴してしまうからです。それはストレスが溜まってしまう原因にもなります。ストレスを溜めないよう人に流されない事が大切です。私は私、人は人として分けて生きること、どんなことでも結果を求めない、依存しない。ままならない社会で生きていくためには、まあいいか、そんなものかと考えることも時には必要なのではないかと思います。

引き続き患者さんが笑顔で過ごせるようにスタッフ一同ケアしていきたいと思います。

作業療法科だより

作業療法士　寺崎　竜也

昨年の晩秋に園芸活動の一つとして、玉ねぎの苗の植え付けを行いました。それから、雪も降った冬を超え、薫風香る季節には玉ねぎの頭が見え始めます。そして梅雨に入り、いよいよ収穫の時期となりました。収穫日は天候に恵まれ、各々が葉の部分をしっかり掴み、様々な大きさの玉ねぎが顔を覗かせます。新鮮な玉ねぎは香りが強く、瑞々しいです。「さて、どのように食べようか。」「オニオンスープがいいんじゃない？」、「肉じゃがもいいよなぁ。」と、声が聞こえます。園芸活動では、普段見られない表情や、様々な会話で盛り上がり、皆様は自然に笑みがこぼれます。

後日、さっそく新玉ねぎを使って調理活動を行いました。ホットプレートで焼いたり、薄くスライスしてサラダにして食べたり、あっという間に収穫した半分の量の玉ねぎが無くなりました。「今度は何を作ろうかな？」今後も皆様と話し合いながら、活動に活かしていきたいと思います。

日常の一コマ

今回は２病棟の正子さん（70 歳）の一コマです。

正子さんはふじみ野市の生まれです。社会に出てからは電気会社の事務員として仕事をし、２３歳の時に３歳年上のご主人とお見合い結婚、３人のお子様に恵まれました。

ご長女さんによると、ご主人が始めた販売業の手伝いをし、子供たちにはとても優しい母親だったそうです。

いつの頃からか「同じものを買ってくる・お会計を忘れる」などの兆候が見え始め、「火の消し忘れが怖い」と料理が出来なくなったそうです。そして平成２４年頃からご主人が歩けなくなり、その介護疲れもあってか精神的に不安定となり、精神科病院でうつ病と診断されました。翌年にはご主人が自宅で動けなくなり（廃用症候群）、ご夫婦で施設入所やショートステイを利用しながら、ご家族が支えてこられたようです。

さらにその翌年、正子さんは物忘れが酷くなり、改めて別の病院で診察を受け、ピック病（前頭側頭型認知症の一種、初老期 60 代前半で発症することが多く、人に迷惑をかける行為や常識から考えてやってはいけない行為をすることがある）と診断されたそうです。平成 30 年、施設入所中のご主人が亡くなられその影響からか正子さんは意識消失発作や転倒が見られ、施設から病院へ、病院から施設へ、を繰り返しましたが、多飲水状態（水を欲しがり花瓶の水でも水道の蛇口からでも水を欲しがる）や、徘徊・興奮状態が続いたため、施設対応が困難となり平成 30 年 11 月に当院に入院となりました。正子さんの状態は看護サマリーに書かれてきた程でもなく、比較的穏やかで、現在も大きく変わったところはありません。お食事は自力で完食されますし、嫌なことは嫌とはっきりおっしゃいます。でも以前はタオルたたみなどをスタッフ達と話をしながら作業のお手伝いをしてくれていましたが、最近は口数も少なくなり、作業はしないとお断りされることが多くなりましたね。そんな正子さんですが、桜の季節などは歩行練習をしながら「きれいだね」と話され、またご家族の面会時にはとても嬉しそうに笑顔を見せてくれます。

今後も当院での時間をゆっくりと楽しんで頂ければ、とスタッフ一同思っております。

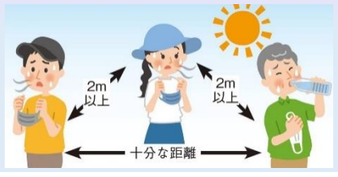
２病棟　介護主任　　清水　直美

看護日誌

１病棟　看護師　　川野　和恵

コロナ禍になり生活のしづらい日々が続いております。これからの季節、マスク着用により熱中症リスクが高くなるため、予防ポイントを紹介します。

① 暑さを避ける　　感染予防のため換気扇や窓開放で換気を確保しつつ、エアコンの温度設定をこまめに調整する。
② 適宜マスクを外す　距離を十分に取った上で、適宜マスクを外して休憩する。
③ こまめに水分補給　大量に汗をかいた時は塩分も忘れずにとる。
④ 暑さに備えた体作り　水分補給は忘れずに、無理のない範囲で。



これからの季節、熱中症にかからないためにも少しずつ、出来る事から対策していく事が大切だと思います。